

学校法人樟蔭学園 第Ⅳ期中長期計画

[2025年度～2029年度]



はばたけ、知性。



第Ⅳ期中長期計画の策定にあたって

樟蔭学園は、1917年の創立以来、百有余年の歴史の中で「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」を理念に掲げて、女子教育の発展に邁進してまいりました。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響から、社会全体の環境や生活スタイル、価値観は大きく変化し、今、急速に発達・普及したAI（人工知能）が、教育現場、医療現場、ビジネス現場等、様々なシーンで活用され、従来では考えられなかった各現場におけるモデルも可能になり、新しい事業等の創出が起っています。まさに「VUCA」という言葉で言われる通り、未来に対して予測困難な時代となっている現在ですが、このような状況では、既存の枠組みや認識では、課題解決に繋ぐことは難しいと言われていています。AIは、過去の蓄積データから処理し解に繋がりますが、無から創出することは苦手です。わたしたちは今、既存知識等をどのように使い、考え、変えて、あるいは生み出していくのか、まさに未来をデザインしていく力こそ求められていると言えます。

日本のあるイノベーターの言葉を借りれば、技術等での競争優位は、コピーという攻撃を受けた際にポジションを守ることが困難になってしまいますが、ストーリー性だけは、コピーされてもオリジナル価値が揺るがない最後の価値となります。まさに芭蕉の言う「不易流行」の如く、不変の本質こそゆるぎない価値であり、そのうえで新しい変化や価値観を取入れることで風新たになると考えます。

樟蔭学園は、学園が女子学園として社会に存在することの文脈や学園の原点として有する揺るぎない世界観を礎に、今、「第Ⅲ期中長期計画」を承継する「第Ⅳ期中長期計画」（2025年度～2029年度）をここに提示し、これに基づいて行動していきます。

学園各校のシナジーをさらに発展させながら、各校が様々な課題に迅速かつ柔軟に対応して、教育の成果を積み上げていき、社会から選ばれる学校として、持続的な発展を実現することを誓います。



学校法人樟蔭学園
理事長 森 眞太郎

目次

- 》》 建学の精神
- 》》 SHOIN VISION 2030 設置学校の将来像（長期ビジョン）
- 》》 中長期計画の全体
- 》》 中長期計画の継続性
- 》》 部門別（各校の）中長期計画
 - __大学
 - __中学校・高等学校
 - __幼稚園
 - __法人

建学の精神

「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成をめざす



樟蔭学園はこのときにあたり、
知情意兼備の豊かな母性が
女性の充実した人生も、地球の明るい未来も
ともに約束するという信念に基づき女子教育を志す

若々しき知性よ、この無窮の大空を翔けよ
優しき虹の環をもって地球を包め
志は玉よりも清らかに、笑顔は花よりも美しく

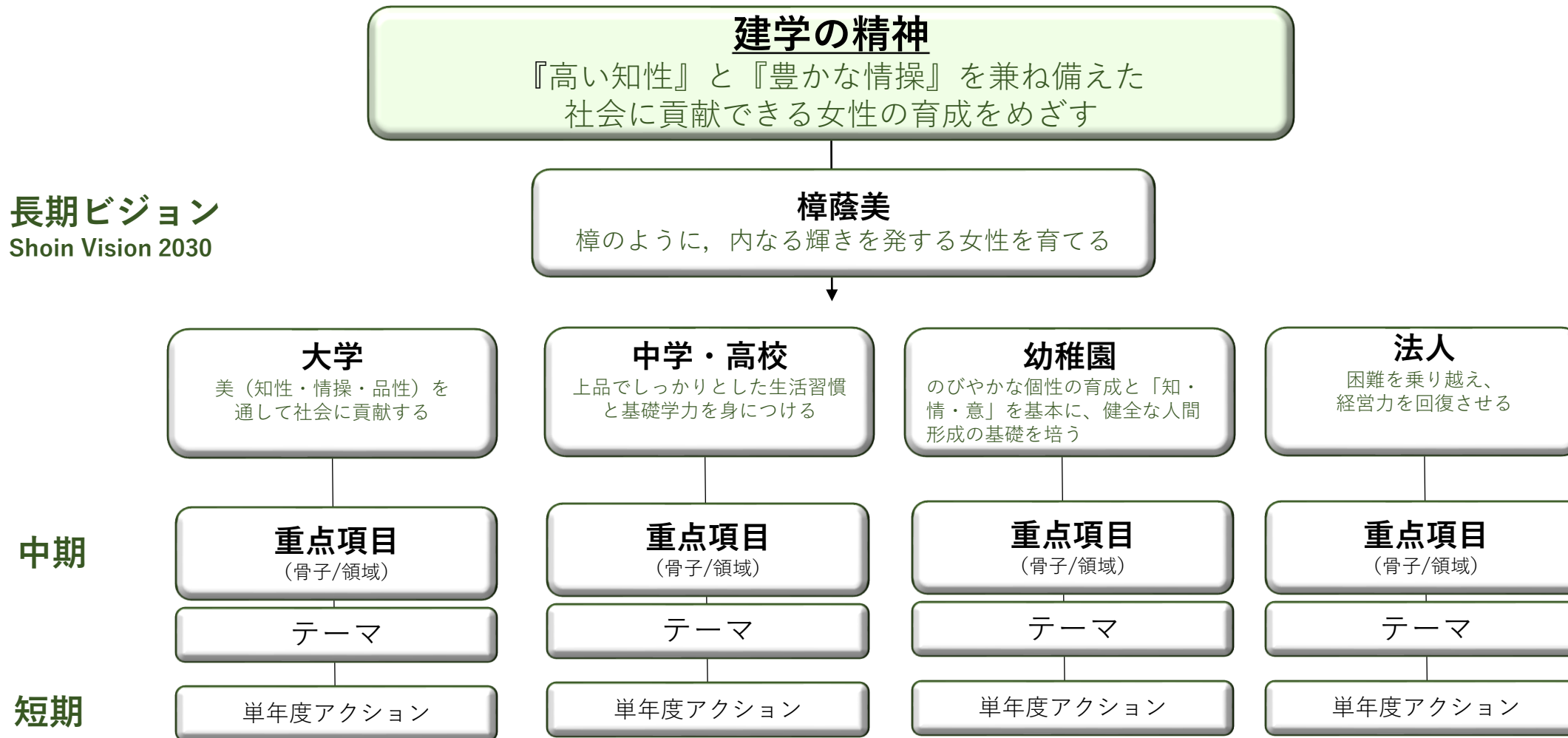
ここ樟の葉蔭に集う人々よ、いざともに手を携え
真理と正義の大道をまっすぐに進もう
徳は孤ならず、人類の平和と繁栄は
必ずこの道より始まる

SHOIN VISION 2030 設置学校の将来像（長期ビジョン）

樟蔭学園が百有余年の歴史の中で育て上げてきたものの根幹は、学生生徒それぞれが内なるものとして培った女性としての芯、意思、またその強さであり、「樟蔭美」という価値観に集約されます。本学園は、建学の精神のもとに、「樟（くすのき）のように内なる輝きを発する女性を育てる」ことを通じて、社会の幸せのために力を発揮していける存在として在り続けます。



中長期計画の全体



中長期計画の継続性

continuity

経営計画	ポートフォリオ
第Ⅰ期 (2010～2014)	Ⅰ 帰属収支計画 Ⅱ 高度な教育の推進・学生確保 Ⅲ スリムで機能的な運営体制 Ⅳ 士気を高める人事給与制度 Ⅴ 効率的な予算・財務管理 Ⅵ 財政改善推進体
第Ⅱ期 (2015～2019)	Ⅰ 学園ミッションの実現 Ⅱ 教育内容の整備 Ⅲ 経営基盤の強化 Ⅳ 環境整備
第Ⅲ期 (2020～2024)	Ⅰ 大 学__使命・目的の実践 学生の受け入れ・学生のサポート 教育課程の改善 教学マネジメント 教員・職員配置,研修 研究支援 内部質保証 グローバル化への対応 地域連携・産学官連携 Ⅱ 中 高__樟蔭女子教育 定員充足 教育力の向上 進路希望の100%実現 グローバル化への対応 サポート体制の充実 ガバナンスの強化 安心・安全な環境の提供 Ⅲ 幼稚園__入園者の確保 未就園児の確保 安心・安全の確保 大学・高校との連携 地域との連携 Ⅳ 学 園__建学の精神の浸透 中高大接続 経営・ガバナンスの強化 働き方改革や制度・運用の見直し 人財の育成 寄付金募集 知名度の向上 樟蔭愛の顕在化 歴史資料の管理 安心・安全な教育環境の提供 安定した財政基盤の確立
第Ⅳ期 (2025～2029)	Ⅰ 大 学__組織の改編・強靱化 教育改革の推進 研究活動の強化 学生支援の充実 社会連携・国際化の展開 Ⅱ 中 高__樟蔭女子教育の推進と学力の育成 魅力の強化と発信 管理運営の改善と充実 Ⅲ 幼稚園__教育の質の維持・向上 子育て支援事業の強化 運営体制の強化 Ⅳ 学 園__樟蔭ブランディングの強化 組織運営の改善・強化 財政運営の改善・強化 キャンパスの整備・最適化



Shoin Vision 2030

大学
美(知性・情操・品性)を
通して社会に貢献する

中学・高校
上品でしっかりとした生活習慣と
基礎学力を身につける

幼稚園
のびやかな個性の育成と「知・情・
意」を基本に、健全な人間形成の基
礎を培う

法人
困難を乗り越え、
経営力を回復させる

部門別（各校の）中長期計画

大学

～美 Beautiful～

美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する。

2030年に向けて、6つのビジョンと学園全体のコンセプト「樟蔭美」を基に、地域にとって存在感のある大学をめざす。

重点項目1

組織の改編
・強靱化

重点項目2

教育改革の
推進

重点項目3

研究活動の
強化

重点項目4

学生支援の
充実

重点項目5

社会連携
・国際化の
展開

1 組織の改編・強靱化

To be/goal

- ・学部・学科構成について、建学の精神を踏まえ、社会ニーズの変化に対応している。
- ・適切な教員構成となった効率的な教員組織体を実現できている。
- ・不要な会議体の削減と迅速な意思決定ができる組織構成が実現している。
- ・学長のガバナンスを支える補佐体制が整備され稼働している。

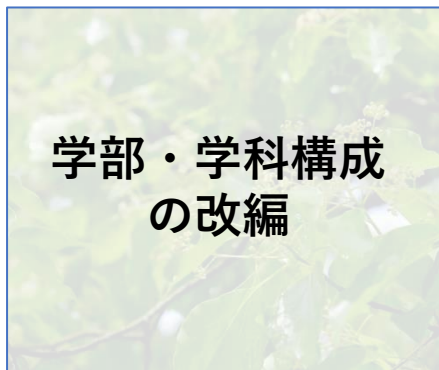
KGI

- ・教授への昇任者毎年2名の実現
- ・春期・秋期各1回のミドルレベルFD・SDの実施
- ・IR部門からの春期・秋期各1項目以上の改善事項の提案
- ・入学者数500人
- ・収容定員充足率90%

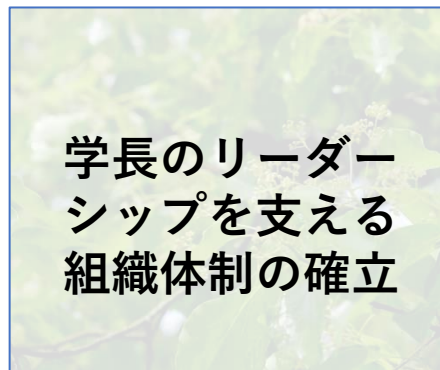
Points

- ・適正規模と新しい分野への展開
- ・管理職、会議体の役割の明確化と認識

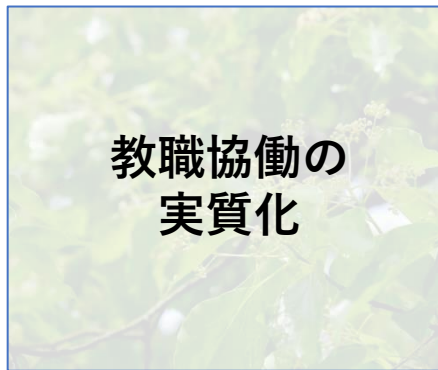
取組テーマ1



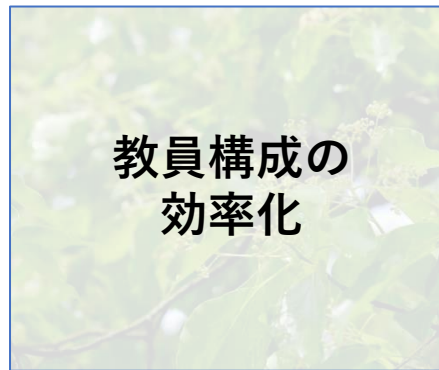
取組テーマ2



取組テーマ3



取組テーマ4



1 学部・学科構成の改編

目標：

社会ニーズと本学原点・シーズの中で、時代に合致する学びを組織として構成し、かつ、適正規模化を図る。

Action

- 新学部・学科設置
- 既存学部・学科の再編

2 学長のリーダーシップを支える組織体制の確立

目標：

大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが発揮されている。

Action

- 副学長による学長補佐体制の構築
- 学部長による学部マネジメントの強化

3 教職協働の実質化

目標：

事務職員の役割が明確化されている。管理運営業務の見直しがなされている。

Action

- 大学経営やマネジメント層への参画
- 推進の実質化
- 管理運営業務における教員の役割の明確化

4 教員構成の効率化

目標：

必要な教員数による大学運営がなされている。

Action

- 各学部における適切な人員配置

2 教育改革の推進

To be/goal

- ・学修者本位の教育とは何か合意が取れている。
- ・「総合的な探究の時間」等における問題発見・課題解決的な学習活動を踏まえた教育が展開できている。
- ・数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持たせる教育が展開できている。

KGI

- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を修了した学生80%以上
- ・適切で体系的なDP・CPの設定とそれに基づく教育課程の編成の実現（4年間で100%）、及びそれに関するアセスメントの実施（毎年最低1回実施）
- ・学修成果の可視化方法（学修ポートフォリオ）の改善（必須）
- ・学修ポートフォリオの部門別の活用（100%）
- ・DP・CPの適切な設定とその点検（毎年最低1回実施）

Points

- ・社会情勢に対応した学修者本位の教育課程の提供
- ・DPの見直しと、それに準ずるCPの設定
- ・教育課程の自立的な点検・改善体制の確立

取組テーマ1

学修者本位の教育
の推進

取組テーマ2

教育課程編成シ
ステムの効率化
と高度化

1 学修者本位の教育の推進

目標：
教育の質保証の向上にむけて不断の努力がなされている。

Action

- DPを踏まえた適切な成績評価・卒業認定等の遂行
- 望ましい教職員像の共有
- 学修者本位の教育課程の提供
- 効果的な授業方法の実践
- 点検・評価の実施とそれに基づく改善の実行

2 教育課程編成システムの効率化と高度化

目標：
教育課程の自律的な点検が実施され、それに基づいた、適切で体系的な教育課程が編成されている。

Action

- DPに基づく適切なCPの設定とその実行
- CPを踏まえた、教育課程の恒常的な改善の遂行

3 研究活動の強化

To be/goal


- ・教員の研究時間がしっかり確保でき、毎年の研究成果が公表できている。
- ・URAなど、研究サポート体制が機能している。

KGI

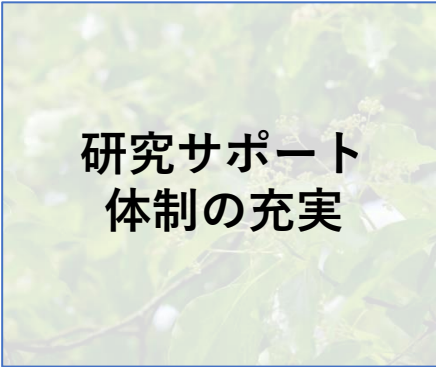
- ・論文等を少なくとも毎年1本公表する教員の割合が100%
- ・科研費を受けている教員数が20%以上

Points

- ・教員の研究成果

取組テーマ1

研究活動
の活性化

取組テーマ2

研究サポート
体制の充実

1 研究活動の活性化

目標：

教員の研究意欲を高める学内の研究サポート体制が形成されている。
恒常的に研究活動が行われ、その成果が公開されている。

Action

- 定期的な交流活動による教員の研究意欲の向上
- 研究活動の活性化に向けた教員活動評価制度の恒常的な改善
- 研究成果公表機会の拡充

2 研究サポート体制の充実

目標：

研究サポート体制が整備されている。

Action

- 外部研究資金獲得のためのサポートの充実

4 学生支援の充実

To be/goal

- ・学生の意見を吸い上げ、学生支援の改善に活かせるシステムが構築されている。
- ・学生が成長を実感できるサポート体制が実施できている。
- ・充実したキャンパスライフを支えるサポート体制が拡充している。

KGI

- ・学生支援への学生満足度90%以上
- ・修業年限で卒業する学生の比率90%以上
- ・進学を除いた卒業学生数に対する就職率90%

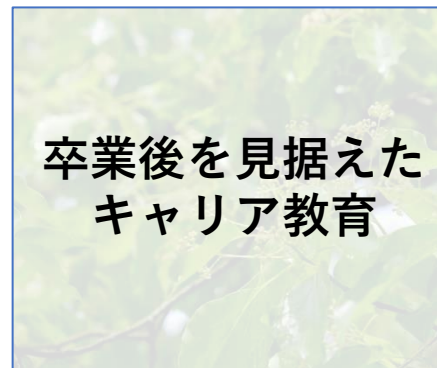
Points

- ・支援と学生の自主的活動（自走）の均衡
- ・退学者低減
- ・学生のキャリアへの動機付け

取組テーマ1



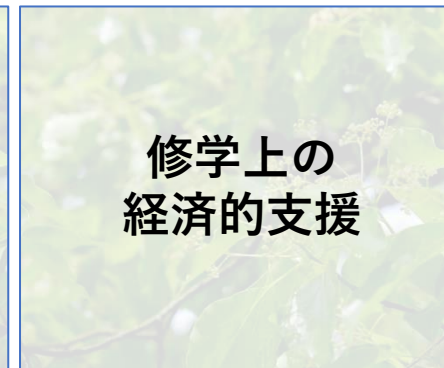
取組テーマ2



取組テーマ3



取組テーマ4



1 修学支援

目標：
修学上の支援が充実している。

Action

- 合理的配慮を要する学生への支援の再整備
- 復学者に対する支援
- 多様性を認める人権意識の啓発

2 卒業後を見据えた キャリア教育

目標：
キャリア教育・支援体制の整備がなされている。

Action

- 就職意欲を高めるためのキャリア関連イベントへの参加率の向上・活性化

3 課外活動支援

目標：
課外活動への学生の参加率が向上している。

Action

- 各クラブ・同好会の活動サポート

4 修学上の経済的支援

目標：
外部奨学金の新規開拓を行い、その情報提供が常にできている。

Action

- 外部奨学金の新規開拓

5 社会連携・国際化の展開

To be/goal

- ・東大阪市をはじめとする近隣自治体が持つ特性、課題に対し、提案型の貢献ができています。
- ・出自や価値観が多様な学生が学ぶキャンパスが実現している。
- ・日本語を母語としない学生に提供できるプログラムが確立している。

KGI

- ・近隣自治体との連携事業が毎年5以上
- ・在籍する留学生は1学年あたり15名程度

Points

- ・地域との連携
- ・内なる国際化
- ・留学生への対応

取組テーマ1

大学の持つ
リソースの活用

取組テーマ2

地域社会への国際
交流機会の提供

取組テーマ3

グローバルキャン
パスの実現

1 大学の持つリソースの活用

目標：

地域の課題を学びを通して解決する。
コスメティックコンソーシアムの活動を活性化させる。

Action

- 研究・正課の授業・課外活動による地域活動
- 樟蔭美科学研究所を中心とした活動

2 地域社会への国際交流機会の提供

目標：

良きパートナーシップ精神を持った社会貢献を行っている。

Action

- 東大阪市の企業、学校、関係行政機関との連携
- 日本語学校との連携

3 グローバルキャンパスの実現

目標：

内なる国際化が実現している。
海外に派遣する学生が増えている。

Action

- 優秀な留学生の確保・支援
- 学内外における国際交流の促進
- 海外留学参加者への新しい奨学金制度の策定

中学校・高等学校

～Little Lady～

上品で、しっかりとした生活習慣と基礎学力を身につける。

高い知性と豊かな情操を内包し、自ら意志をもって行動できる女性として、激しく変化する時代に対応し、自立し、社会に貢献できる力を育成する。

重点項目1

樟蔭女子教育の推進と学力の育成

重点項目2

魅力の強化と発信

重点項目3

管理運営の改善と充実

1 樟蔭女子教育の推進と学力の育成

To be/goal

- ・卒業の段階で「知情意」を兼ね備え、自立して社会で活躍できる教養・学力を身につけている。

KGI

- ・生徒・保護者アンケート、外部評価の肯定的評価80%以上

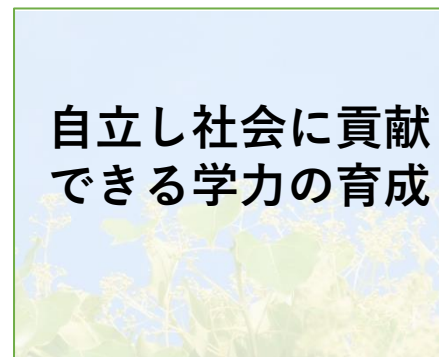
Points

- ・樟蔭建学の精神に基づく、女子教育の推進
- ・個別最適な学びと協働的な学びによる学力の育成
- ・時代に応じた課題解決能力・理系女子の養成
- ・外部関係機関と連携した、食育、金融教育の推進

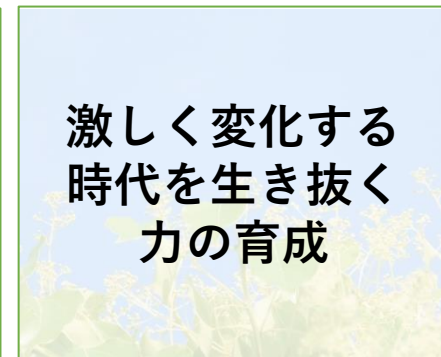
取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 「知情意」を兼ね備えた Little Ladyの育成

目標：

樟蔭建学の精神を踏まえ、美しい所作の女性を育成する。
思いやりの心や前向きに取り組む意欲を育成し、さらにそれらの基盤となる健康的な身体へと導く「食」に対する意識を育成する。

Action

- 樟蔭建学の精神、歴史伝統、樟蔭ブランド等の理解・継承
- 生徒による主体的な学校活動の推進
- 社会活動等への参加奨励
- 食育・金融教育の推進

2 自立し社会に貢献できる学力の育成

目標：

興味・関心を伸ばし、進路希望実現に向けた学力を育成する。
実践的なキャリア教育を行うことにより自立し社会で貢献できる力を育成する。

Action

- 個別最適な学びによる学力の育成
- 協働的な学びとしての探究活動の実施・推進
- 中高6年間を通したキャリア教育の計画実践

3 激しく変化する時代を生き抜く力の育成

目標：

GRIT力やリーダーシップ、創造力、コミュニケーション力、プレゼン力、語学力などを育成する。
理系への興味付けを進める。

Action

- 授業内探究活動の充実・Mytime・各コース探究活動の充実
- 国際交流・海外研修の機会の充実、語学力の育成
- 理系女子教育の推進

2 魅力の強化と発信

To be/goal

- ・社会や生徒・保護者のニーズを踏まえて、学びの魅力を深化・拡張させ、また、生徒一人ひとりの面倒見よさを追求することで、樟蔭中高の認知が進み、生徒募集力に繋がっている。

KGI

- ・毎年度中学10人、高校20人の入学生増
- ・中学校入学生120人
- ・内部高校進学率90%
- ・高校入学生320人
- ・希望進路実現100%

Points

- ・中高生のニーズに合ったコース・科目設定
- ・個に寄り添う支援体制と多様な進路実現の保証
- ・SNS等による入試広報の改善充実・奨励生制度の活用

取組テーマ1

魅力ある
コース・選択科目
の設定・発信

取組テーマ2

個性尊重に立つ
進路の実現

取組テーマ3

効率的な広報活動
と志願者増への
積極的な取組み

1 魅力あるコース・選択科目の設定・発信

目標：

中高生のニーズに合ったコース・選択科目を設定・発信することにより、入学希望生徒の増加を図る。

Action

- 中高生のニーズに合ったコース・選択科目の設定
- コースごとの中高各学年到達目標の設定・実施
- 中高生の興味・関心を深める学びへの工夫

2 個性尊重に立つ進路の実現

目標：

面倒見の良い学校として、個々の生徒に寄り添い、必要な支援を行うことで転退学生0をめざす。個々の強みを進路希望実現に繋げるよう支援する。

Action

- 個々の生徒に寄り添う支援体制
- CS制度の効率的・効果的運用
- 多様な進路希望実現

3 効率的な広報活動と志願者増への積極的な取り組み

目標：

教育活動の効果的・効率的な発信により、本校の魅力を伝えるとともに、適切な入試方法と優遇制度の運用を行い、入学希望生徒の増加を図る。

Action

- SNS等による魅力発信促進、強化クラブの充実
- 入試制度・広報活動の改善
- 奨励生制度の積極的な運用

3 管理運営の改善と充実

To be/goal

- ・最新の専門的知見、及び豊かな社会人資質を身につけた教員が、組織運営において全体最適を意識して行動しており、ハードのみならずソフトとしての教育環境に対して、生徒・保護者からの信頼が強くなっている。

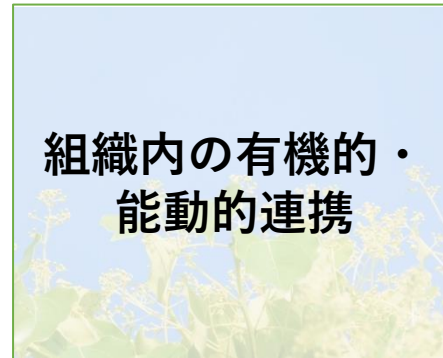
KGI

- ・生徒・保護者アンケート、外部評価の肯定的評価80%以上

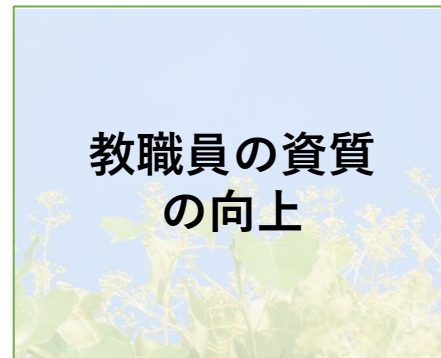
Points

- ・各組織の目的の明確化、達成指標の共有化の推進
- ・教員力向上のため、他校の取り組みの研究、研修参加の奨励
- ・生徒保護者アンケート、満足度調査等を反映した計画の修正

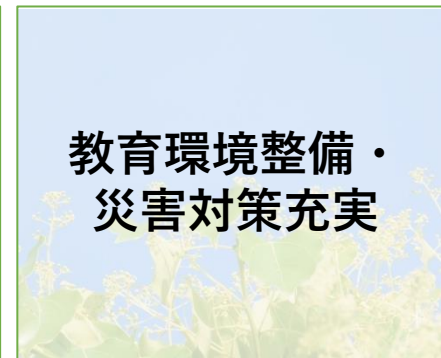
取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 組織内の有機的・能動的連携

目標：

有機的・能動的な組織となるため、各会議の目的等の明確化、積極的な提案と迅速な実施を奨励し、共有する目的に向けて学園全体で取り組む。

Action

- 運営委員会、各分掌・学年・教科会議の活性化
- ボトムアップの提案、トップダウンによる実施
- 樟蔭学園内の情報共有・連携協力

2 教職員の資質の向上

目標：

激しく変化する社会情勢を敏感にとらえ、生徒を適切に指導することができるよう、情報の把握に努め、迅速かつ丁寧な対応を行う。
常に最先端の知見に基づく教育を行うため、各自が積極的な研修に努める。

Action

- 外部評価等の積極的な活用、計画見直しへの反映
- 生徒・保護者に対する迅速丁寧な対応
- 最先端の教育的知見、教育方法の研究・共有
- 社会の変化に対応できる研修

3 教育環境整備・災害対策充実

目標：

教育環境の最適化を目指すとともに、非常災害等の対応に万全を期す。

Action

- より快適な教育環境への整備・点検

幼稚園

～「根っこ」を育てる教育～

のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、
健全な人間形成の基礎を培う。

重点項目1

教育の質の
維持・向上

重点項目2

子育て支援
事業の強化

重点項目3

運営体制の
強化

1 教育の質の維持・向上

To be/goal

- ・保育を支える教員の資質と保育内容、及び体制が常にアップグレード・アップデートされている。
- ・本園のビジョンや保育内容等の特色が世間に広く周知、理解され、結果として、入園募集力に繋がっている。

KGI

- ・自己評価・観点評価、研修参加などを含めて数値化し、前年値を下回らないように維持
- ・各学年園児45名以上、全園児135名

Points

- ・優秀な教員を確保する

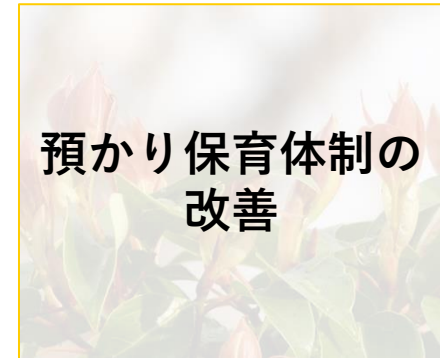
取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



取組テーマ4



1 教員の質向上

目標：

個人の資質向上に向けての取り組みとともに、チームとしての教育を行い、園児の保育に最適な教員を確保する。

Action

- 研修（園内、園外）
- 公開保育と評価

2 教育課程の改善

目標：

教育指導要領を踏まえたうえで、社会の変化にも対応できる内容を取り込む。

Action

- 体験型総合保育の内容点検・拡充

3 預かり保育体制の改善

目標：

保護者ニーズを踏まえ、課外保育との組み合わせも考慮し、時間・場所を工夫する。

Action

- 人的・設備的な面での体制再編

4 施設設備の充実

目標：

現代的で、かつ、こどもの発達段階や安全性を担保する施設や設備、備品等について、豊富で魅力的なラインナップとする。

Action

- 現代の保育に必要な環境を整備

2 子育て支援事業の強化

To be/goal

- ・子育てに関する専門的知見やノウハウを持つ幼稚園として、地域社会から頼られ、未就園児クラスが常に定員充足している。

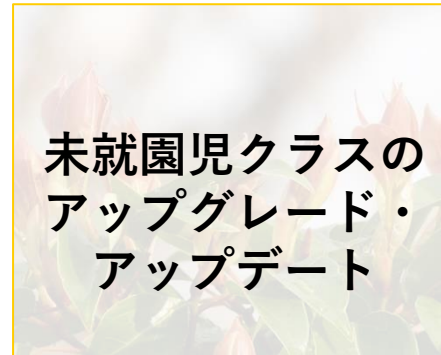
KGI

- ・未就園児クラス（3クラス）45名
- ・園庭開放毎回20名以上の参加
- ・地域への子育て支援策を2（未就園児クラス・キンダーカウンセリング）から5へ増強

Points

- ・こども誰でも通園制度への対応
- ・地域における幼児期の教育、保育の中心的な役割を担う努力
- ・地域のニーズの把握及び、適切な子育て支援策の立案、周知

取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 未就園児クラスのアップ グレード・アップデート

目標：

社会のニーズの下、保護者ニーズに合うクラス運営を行う。

Action

- クラス人数、週当たりの開催回数の検討
- 未就園児クラスと在園児との交流

2 園庭開放の促進

目標：

地域の子どもたちの交流の場となり、また本園認知の第一歩となるよう、内容や頻度（回数）の充実を図る。

Action

- 未就園児クラスへの導入を見すえた0～1歳児向けサービスの開発

3 地域社会との関係強化

目標：

地域との相互交流について検討する。

Action

- キンダーカウンセリングなど園の活動を地域の人々へ発信
- 地域の活動に向けて情報の収集及びニーズの掘り起こし

3 運営体制の強化

To be/goal

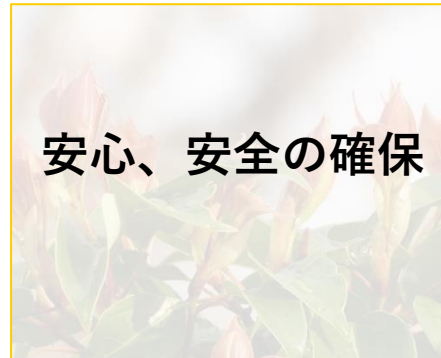
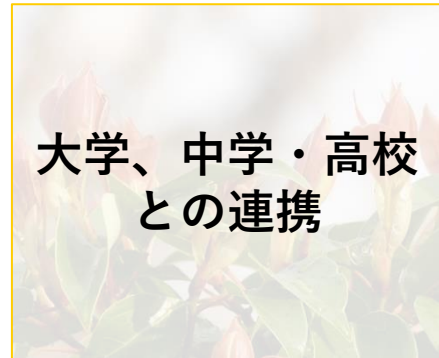
- ・各ステークホルダーとの連携体制が十分に機能し、ハードのみならずソフトとしての保育環境に対して、保護者からの信頼が強くなっている。

KGI

- ・事故0
- ・学科等との新しい取り組みの立ち上げ
- ・保護者アンケートにおける否定的回答0

Points

- ・出欠席の確実な確認、見守り体制の強化等による安全性の向上
- ・大学、高校と連携した交流、企画の実施
- ・子どもたちの活動実態の可視化による、保護者の安心感の向上

取組テーマ1**取組テーマ2****取組テーマ3**

1 安心、安全の確保

目標：

子どもたちが安心して遊べる環境を確保し、それが保護者にも伝わる仕組みを作る。

Action

- 設備点検
- ICTを利用した方法
- 見守り体制強化

2 大学、中学・高校との連携

目標：

学園各組織との連携を進める。

Action

- 児童教育学科、児童教育コースとの関係強化
- 各学科、コース、SILCなどとの関係強化

3 保護者との連携

目標：

保護者に安心してもらえる状態を維持する。

Action

- 保護者会との連携

法人

～Be Resilient～

困難を乗り越え、経営力を回復させる。

総合学園として永続していくため、学園内各校が安定的に学生・生徒・園児募集ができるようシステムのアップデート及びアップグレードを不断に行い、経営基盤の強化のための総合的マネジメントを行う。

重点項目1

樟蔭ブラン
ディングの
強化

重点項目2

組織運営の
改善・強化

重点項目3

財政運営の
改善・強化

重点項目4

キャンパス
の整備・
最適化

1 樟蔭ブランディングの強化

To be/goal

- ・樟蔭学園という一つブランドにおける学びの特長を確立し、対外的アピールポイントとしていく。
- ・学園各校、特に高大の学びの連携によって「確かな学力」が育成され、高校への入学が学びによって選択されて入学者が増加し、ひいては併設大学の学びに魅かれ、大学の入学者が増加している。
- ・「樟蔭=●●●」という連想（識別性）が、世間（主に関西圏）に根付くようになっている。
- ・ブランドコミュニティの結束が強化し、樟蔭認知拡大の支援となっている。

KGI

- ・内部進学率33%（※Ⅲ期最終2024年度約26.6% 53/199人
⇒Ⅳ期最終100/300人）
- ・「カレッジマネジメント」（リクルート）の進学ブランド力調査
_関西志望度ランキング_女子においてベスト20以内（ランクイン）

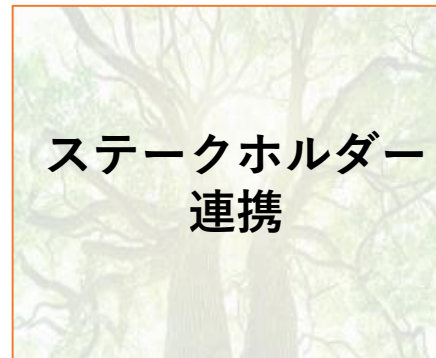
Points

- ・高大接続の実質化（学びのコンテンツの再生）
- ・「樟蔭」の情報発信の多彩化
- ・OGとのリレーション強化

取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 学園各校の学びの連携

目標：

総合学園として学園各校が連続性の中にあり、最大のアピールとなるべき”学び（教育の内容）”で連携を密にすることで、還元的に各校の学びの充実（深化）と学園としての学びの特色を構築し、樟蔭の学びとは何かの一つの答えを出せるようにする。

Action

- 探究学習の推進
- AI教育の推進
- 地域と連携した教育活動の推進
- 学修成果の可視化

2 ステークホルダー連携

目標：

直接的ステークホルダーである学園各校の卒業生、及び卒業生組織の樟蔭同窓会との連携の中に新しい形を求め、全国的な横繋がり【絆】の強化を行うと同時に、ブランド価値を次世代層【縦】へ繋げるようにする。

Action

- 卒業生との連携
- 同窓会との連携

3 ブランド認知の浸透

目標：

従来の情報発信の維持強化のみならず、5年間の戦略性をもってブランド認知をすすめ、その方針等がインナーにも周知・理解がされている。

Action

- WebやSNSによる戦略的情報発信
- 学び及び研究活動の発信
- 樟蔭エンタープライズ(株)との連携によるオリジナル商品開発

2 組織運営の改善・強化

To be/goal

- ・ 教学面・管理面の運営において役割・責任が明確になっており、適正な意思決定・運営ができています。
- ・ 頑張ってる（成果を出している）教職員が相応のリターンを受けている。
- ・ 次世代につなぐ職員体制・制度になっており、職員自身の質的向上ができています。
- ・ 「学習する組織」として、一人ひとりの学習が組織のネットワークエンジンとして結実している。

KGI

- ・ 次世代層による第Ⅴ期中長期計画（財務計画を含む）の公表
- ・ 基幹教員制度導入に伴う大学教員・役職者別勤務の在り方等の明文化
- ・ 職員評価制度のリニューアル
- ・ 職員の評価機構等外部研究機関等への出向

Points

- ・ 改正私立学校法に基づく寄附行為による学園運営
- ・ リスク管理の重点化
- ・ 若手（提案型）職員の育成と人事・評価システムの改善・改革
- ・ 働き方の改善・改革（バリエーション化）
- ・ ウェルビーイング

取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



取組テーマ4



1 ガバナンスの強化

目標：
機能的な執行（理事会）と監視・監督（評議員会）が建設的に協力し合い、納得感のある法人運営をできるようにする。

Action

- 理事・監事・評議員の役割に基づく新たな機関運営
- 中長期計画の運用
- 役員及び部門トップの研修強化
- 情報セキュリティの強化

2 危機管理体制の実質化

目標：
南海トラフ地震等の大規模災害を想定し、体制を整えるだけでなく、反復訓練を以て稼働できるシステムにする。

Action

- 防火防災対策と訓練の重点化
- 安全委員会・衛生委員会の充実
- 施設設備の安全管理

3 業務の効率化促進

目標：
業務の効率性を基準に、教職員のwell-beingの観点を持ちながら、creativityに繋げることができるよう、業務の刷新及び新しい働き方を構築する。

Action

- キャリア中断防止施策の促進
- 大学教員の就業に関する規則の見直し
- 中高教員の就業に関する規則の見直し
- 事務職員の就業に関する規則の見直し
- DX化の推進

4 人材育成

目標：
働き方の見直しをすすめる一方で、今後の事務を総合的な視点で、且つ専門力を以て担えるマネジメント能力に秀でた人材を育成する。

Action

- 外部機関出向、学位取得（MBA等）等の促進
- 職員人事評価制度再構築__成果と応報

3 財政運営の改善・強化

To be/goal

- ・ 経常収支差額が黒字へ向けて回復基調にあり、将来への展望が見通せるようになっている。

KGI

- ・ 学園全体で経常収支差額マイナス100,000千円

Points

- ・ 人件費の見直し
- ・ 構造・ルールの改革改善
- ・ 部門の独立採算制への考察

取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 経費支出の適正化

目標：

独立採算制を検討するなどして、新たな視点で予算配分を行い、各部門が収支のバランスを意識することで恒常的な黒字化に繋げる。

Action

- 部門別独立採算制の試行
- 予算管理の見直し
- 経費使途の見直し

2 人件費支出の適正化

目標：

構造から見直すことで、収入や仕事量に見合った支出ができており、賞与の水準が第Ⅲ期中長期計画期間を上回るようにする。

Action

- 俸給表の見直し
- 諸手当の見直し
- 退職金の見直し
- 職種別人員の適正管理

3 外部資金等の積極的導入

目標：

恒常的な収入を意識したうえで、新たに外部資金等が導入できるよう積極的に取り組む。

Action

- 積極的な補助金の活用
- 寄付金増進計画の策定・履行
- 効率的な資産運用

4 キャンパスの整備・最適化

To be/goal

- ・本学の理念に基づいた、質の高い女子教育を支える環境が提供されている。
- ・リスク低減に向けた計画の推進がされている。

KGI

- ・キャンパスマスタープランの公表（第1版発行）
- ・学生・生徒の満足度向上（改善率80%以上）
- ・安心・安全な教育環境の整備（施設設備での事故0）
- ・閑屋キャンパスの売却（保守経費・減価償却額0円=約90,000千円削減）

Points

- ・戦略的な校舎整備計画
- ・積極的な学生生徒のニーズ把握
- ・事後保全から予防保全への転換
- ・閑屋キャンパスの売却と移転登記

取組テーマ1



取組テーマ2



取組テーマ3



1 キャンパスの整備

目標：

施設設備を最適に整備するとともに、実現可能性の高いキャンパスマスタープランを策定、キャンパス空間の将来像を明示する。

Action

- マスタープランの策定と公表
- 施設設備修繕計画の立案と実行
- 施設設備の維持管理の徹底

2 環境整備の強化

目標：

学生・生徒の主体的で多様な学びやコミュニケーションに対応するとともに、多様性や環境に配慮した価値ある空間を提供する。

Action

- 満足度の高い空間の整備
- 多様性に配慮した空間の整備
- SDGs・環境負荷低減の取組

3 遊休不動産の売却

目標：

遊休不動産について、所有コスト低減のため、また新たな教育環境整備への投資のため、売却する。

Action

- 関屋キャンパスの売却
- 樟南園、樟蔭寮の売却

学校法人 樟蔭学園

大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号
TEL.06-6723-8183 FAX.06-6723-8263